


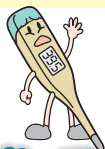
 インフルエンザにかかったとき、タミフル®/リレンザ®投与は悩ましい	1ページ
 健康フェア/「糖尿病教室12月」のお知らせ/今月のイチオシ図書	2ページ
 糖尿病ワンポイントアドバイス	3ページ
 外来からのお知らせ/アレルギー教室のクッキング/外来診察のご案内	4ページ



早いもので、今年も師走に突入しましたね。今年よく耳にした言葉の中にはきっと、**新型インフルエンザ**、**タミフル**、**リレンザ**などがあるのではないのでしょうか？



インフルエンザにかかったとき、タミフル®、リレンザ®投与は悩ましい

昨年までは12月の末になると、早い年では三重県でインフルエンザがはやり始めました。しかし、今年は10月から**新型インフルエンザ**の流行が拡大しています。今は、インフルエンザの迅速診断検査ができるようになりましたので、多くの人はインフルエンザの検査を希望されます。しかし、インフルエンザの迅速検査を一度受けた子どもは、鼻をおさえて抵抗します。鼻の奥(後鼻腔といいます)に綿棒を入れられると、痛みは頭の上に走ります。最近、鼻水を材料に用いてもインフルエンザの診断ができることがわかってきました。鼻をかめる子どもには良いニュースでしょう。

●**兄弟やお母さん、お父さんがインフルエンザにかかって2~4日ほどして高い熱が出た場合はインフルエンザです**(疫学的関連性がある)といえます。子どもの負担を考えると検査をせずに抗インフルエンザ剤(タミフル®やリレンザ®)を使いたいと思っています。しかし、検査をしないと納得されない方がおられ、悩んでいます。

●抗インフルエンザ剤が使用されるようになり、余分な**抗生剤**の使用が減ってきました。しかし、タミフル®の投与に制約がかかる年齢層が二つあります。一つは、**1歳未満の子どもへの安全性が確認されていないため、1歳未満の子どもに投与するとき**は、保護者の同意が必要

になっています。

二つ目は、インフルエンザ発症時の異常言動や異常行動が多かったのが10歳代の子どもだったため、10歳代の子どもに対しては、インフルエンザにかかると重たくなると判断される子どもを除き、タミフル®を投与しないよう通知されました。また、**子どもがタミフル®を服用するときは、保護者の目が届くよう注意すること**となりました。

●インフルエンザによる異常行動は、インフルエンザになって24時間以内に発症します。三重病院で行っている**インフルエンザと異常行動の研究結果は、今のところ異常行動とタミフル®の因果関係はない**ようです(日本で最初の研究成果です)。近年はリレンザ®を吸入した子どもでも異常行動を認めています。抗インフルエンザ剤と異常行動の研究は、異常行動をおこした子どもや保護者の方々の協力により得られた結果です。今年も研究を続けますのでご協力をお願いします。

●最後にインフルエンザは高熱が出るだけでなく、**痙攣**をおこしたり、おかしなことを話したり、暴発的な行動をする病気です。新型、季節性に関係なくインフルエンザで気になる行動を見かけたときは受診してください。入院して注意深い観察が必要でしょう。

(院長 庵原 俊昭)

